

---

# 祈り

合砂

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

祈り

### 【著者名】

NZマーク

N5229S

合砂

### 【あらすじ】

短編。最期を迎える男と女。ファンタジーです。

## 「シャン」

ゆるい、今にも消えそうな声でそれは私の名を紡いだ。

皺だらけの頬を撫でればそれは、開いているのかどうかも最近は分からなくなつた眼を一層細め、微笑んだ。

一日のほとんどをこうやって過ごしている。

それは私の名を呼び、私はその頬や髪を撫でる。そして、骨と皮になつたそれの手を握る。

離して、たまるかと。

昔はたおやかであった黒髪はもつその面影の欠片も見えない、薄い白髪頭になつてゐる。

勝気だつた黒い瞳も今はうつりで、私を映してゐるのかどうかも分からぬ。

年を取るそれと、不老の私。

結末は、誰にでも予想できた。

なのに私は、こうやつて、その手を、それが最後を迎えるとしているこの今でも握つてゐる。

異界から来た娘に興味を持った。始まりはそんなところだ。

それが、いつの間にか隣りに居るのが当たり前のようになり、お互いの孤独を慰め合つていた。

愛してはいけないと、愛されてはいけないと、氣をつけていたのに。

・・・氣をつけていたのに。

それは手を伸ばした。私はその手を取つた。ひとつになりたいと、

願う夜があった。

私とそれは、共に生きる短い永遠を、願つた。

何かを訴えようとするとそれを私は放つて部屋から逃げてしまひたかった。

何故なら、それは、言おうとしたとしている。最後の言葉を。その言葉を聴いてしまうと、

数え切れないくらいの一人だけの約束が、いま、全部、消えてしまう。

それでも、聞いてと、それは手を握り返す。

儚い、今にも折れそうな指にはめた指輪が鈍く光る。

ゆづくじと、震える唇に耳を近づける。

溜め息のような音がひとつひとつ、私に染み込む。

「あなたを こんなに あいしたままで いられて しあわせでし  
た」

頬を伝う涙が私からそれへと繋ぐ細い糸に見えた。  
ずっと繋がっていたはずなのに、それはもう切れそうで、消えそう  
で。

私はその手を離す術を知らない。

(後書き)

処女作

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5229s/>

---

祈り

2011年10月8日23時24分発行